

農政の動き 2015年7月24日～7月30日

◇台風11号 農作物損傷は14府県で2382㍉◇

農林水産省は、台風11号による農業被害状況を更新した。農林水産分野の被害額は37億2900万円。農業分野は、農作物の損傷が14府県で2382㍉、農業用ハウスなどの損壊は11府県で178件、農地の損壊は13府県で317カ所。(7月24日)

◇日中韓FTA 関税撤廃へ交渉継続を確認◇

日本と中国、韓国は、北京で20日から開催していた自由貿易協定(FTA)交渉の局長・局次長会合を終えた。関税撤廃に向けた交渉の枠組みなどについて合意には至らなかったが、交渉継続を確認した。9月に中国で第8回首席代表会合を開催し、包括的で高いレベルでのFTA締結を目指す方針を確認した。(北京共同24日)

◇北日本 8月は平年より晴れの日少なく◇

気象庁は、8～10月の3カ月予報を発表した。〈8月〉北日本は、天気は数日周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ない。東日本日本海側は、平年に比べ晴れの日が少ない。降水量は北日本と東日本日本海側で平年並みか多い〈9月〉北日本は、天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が多い。降水量は北日本で平年並みか少ない〈10月〉東日本太平洋側と西日本は、平年に比べ晴れの日が多い。気温は北・東日本で平年並みか高い。降水量は東日本太平洋側と西日本で平年並みか少ない。(24日)

◇15でんぷん年度見通し 需要量は前年比2.1%増◇

農林水産省は、2015でんぷん年度(15年10月～16年9月)の需給見通しを公表した。需要量は、前年比2.1%増の270万1千㍉と見込む。糖化製品は、平年並みの需要が続くと見込み、2.3%増の181万2千㍉、化工でんぷんは、製紙・段ボール向けの需要回帰が続くとして2.5%増の32万3千㍉とした。供給面では、かんしょでんぷんは平年並みの4万2千㍉、ばれいしょでんぷんは原料バレイショの生育が順調で前年並みの19万3千㍉、コーンスターチはコーンスターチ用トウモロコシの過半を供給する米国の生育が良好で228万1千㍉とした。供給量は全体で274万4千㍉を見込む。(24日)

◇世界人口 2100年には112億人に◇

国連経済社会局は、世界人口が現在(2015年)の73億人から50年に97億人に増え、2100年には112億人に達するとの予測を発表した。22年までにインドが中国を抜き1位となり、日本は現在の11位(1億2700万人)から徐々に順位を下げ、2100年には8300万人で30位になるとした。(ニューヨーク共同29日)

◇都内で首長勉強会 過疎化進む地方の振興探る◇

全国水源の里連絡協議会は、東京都内で高齢化や過疎化が進む地方の地域振興策を考える「首長勉強会」を開き、全国の市町村長など約60人が参加した。東京大学公共政策大学院の増田寛也客員教授が「地方消滅論から地方創生アクションへ」をテーマに講演し、人口減少社会に対応していくためには、「全国一律ではなく、地域の実情に合った独自の政策や高齢者の知識や経験を生かして住民が支え合う

地域づくりが重要」と提起した。地方創生推進の視点には①雇用の確保②結婚・出産・子育てがしやすい環境整備③公共事業などのコンパクト化④財源の確保⑤東京一極集中の是正——を挙げた。(30日)